

思
考
の
隅
景

南アフリカ共和国の首都、プレトリア郊外の丘陵のうえに、台形の巨大な石作りの城塞のようなものが建っている。フォールトレッカー記念碑。英国植民者に圧迫されたアフリカーナーの祖先たちが、ケープ地方を捨て、独立国家樹立を目指して、幌牛車で大移動した事蹟を記念する。1835年から38年にかけて移動したこれらの入植者は、のちにその子孫からVoortrekkerと呼ばれる。1937年に建築が始められ、戦争による中断を挟んで49年12月16日に除幕。ローマのパンテオンを思わせる41メートルの円蓋の天井からは、この日の正午の日光が、地下の、これはパリのアンヴァリッドのナポレオンの棺を思わせる、長方形の大理石に注ぐように設計されていた。この石碑のうえには、「我が命は南アフリカのためにあり」という国歌の一筋が、アフリカーンス語で刻まれている。12月16日は、「和解の日」と呼ばれる祝日。だが実際には、1838年同月同日の戦闘、いわゆる「血の川の戦い」に由来する。

この日、530名のフォールトレッカーたちは、一名の死者も出すことなく、1万2千とも1万5千ともいわれるズルーの戦士たちに、壊滅的打撃を与えた。ヌコメ川は先住民の血で文字どおり真っ赤に染まったという。記念碑を囲む壁には64台の幌牛車のレリーフ。包囲された白人開拓者たちは幌牛車の軒先に夜な夜な明かりを灯した。黒人たちはその灯火を、死んだ白人たちの魂と信じて恐れ、夜襲を仕掛けなかった。それが白人入植者の勝利に繋がったのだ、という。記念碑の内側の巨大な空洞の下、4面の壁には、この「血の川の戦い」も含む大移動の記録が、全長90メートルを越える「世界最大の」大理石のレリーフに描かれている。碑文の置かれた地下は、空っぽの墳墓として、この移動の途上で落命した幾多の白人たちの墓所ともなっている。「ボーア人」たちにとって、この記念碑訪問は聖地巡礼にも似た意義を担う。観光案内のガイドは、無論アフリカーンス語を母語とする白人。記念碑内に黒人の姿は稀だ。

記憶を辿ると、日本にもよく似た記念碑のあることが思い出された。高校の卒業旅行で訪れた宮崎の平和台公園にそそり立つ「八紘

連載 ⑤
流血「和解」の記念碑、そして「八紘一宇」の平和的再利用

ファシズム期折念建造物を支える文脈変更のレトリック

利

稲賀繁美
国際日本文化研究センター研究員・総合研究大学院大学助教授

之基柱」。高さ36.4メートル。日中戦争下の1940年、相川勝六県知事の提唱で、「皇紀二千六百年」を記念して「皇祖発祥の地」に造られたもの。当時進攻していた中国各地から、海外の日本人団体などが献じた1789個の石材から成り、その内部には「国土奉還」、「天孫降臨」といった建国神話から、満州国経営を言祝ぐ「萬邦平和」に至るレリーフが、壁面を飾っている。文字通り「八紘一宇」の夢を託したこの塔は、戦後改名されて「平和の塔」へと変身を遂げ、1964年の東京オリンピックの際には、国内聖火リレーの太平洋側の起点となった。1971年には「県立平和台公園由来」碑が設置されたが、1996年以来、「史実を考える会」から、「平和の塔」の由来説明は史実を歪曲するものだ、として、本年7月のサミット外相会議に先立ち、「虚偽記述の訂正」申し入れが、県知事に対してなされた。

南アフリカのフォールトレッカー記念碑と宮崎の「平和の塔」。両者の比較は、あるいは唐突、不謹慎かもしれぬ。だがそこにジュゼッペ・テラーニのコモの戦没者慰霊碑(1930-33)を加えると、同時代を貫く、ある国際様式が見えてくる。同じ建築家による、コモのファシスト党本部、カーサ・デル・ファッショは、戦後カーサ・デル・ポポロ、すなわち「民衆の家」と改称された。同じテラーニが提案したローマのファシスト会議場E42が丹下健三によって広島平和祈念公園の本館に応用された、との見解を磯崎新が示している。さらに、その公園全体の配置プランは、ル・コルビュジエがスターリンの為に提出したモスクワの「ソヴェト広場」案の焼き直し、中央の馬蹄形の慰霊碑が、戦時中の「忠霊神域」の横流しであることも、すでに知られている。碑の意味はどこから来て、誰が管理するのか。ヘンリー・ムーアのアトム・ワークは80年代初頭、広島現代美術館の入口を飾っていた。だが一県会議員がその同類をシカゴ大学エンリコ・フェルミ研究所で発見し、これでは核批判どころか核称賛の嫌疑あり、ヒロシマには不適切と指摘するや、ほどなくこの作品は、美術館奥に急造の彫刻室へと引っ越した。